

名 称	鹿沼市小中学校再編計画策定に向けた意見交換会（北犬飼地区）について
日 時	令和 6 年 5 月 21 日（火）19 時 00 分～20 時 58 分
場 所	北犬飼コミュニティセンター
出席者	参加者：33 名
内容及び 結果等	【質問】 義務教育学校について、県内や国内の事例をきちんと調査しているか。文科省からは肯定的な部分しか示されないが、デメリットもあるはずであり、その部分が伝わらないことを心配している。 また、デメリットの一つとして 9 年間人間関係が固定化されることがあるが、それによる具体的な問題をイメージできているか。人間関係が悪くなってしまった場合、通常であれば学校が変わり心機一転できる機会があるが、それが失われてしまう。反面、ずっと一緒なので互いを理解しあえるメリットもあるかと思う。 【回答】 義務教育学校は県内に 6 校あり、小山市と佐野市の義務教育学校を視察済みである。 視察先でデメリットについて聞いたところ、子どもや地域の方が感じるデメリットは特になく、子ども達受け手側からすると、中学校の専門性をもつ先生から授業を受けられたり、中学校にあがった生徒が小学校の先生に教わる機会を設けるなどのメリットがあるとのことであった。一方、それを提供する教職員側の負担が増えることが一番の課題ということであった。 人間関係の固定化については、子どもだけではなく大人にも発生しており、子ども達への対策として、異学年同士が交流できるように縦割りのグループを作るなどの方法をとっていた。引続き他市事例等の研究を重ねていきたい。
	【質問】 市が義務教育学校を北犬飼地区で推進しようとしているのはなぜか。県や国から積極的に導入するような方針が示されているのか。 小学 1 年生から中学 3 年生では、精神的な差が大きい上に資料で示された低学年の萎縮やリーダーシップを養う機会などのデメリットを心配している。先進校を地域住民が視察する機会を設ければ、少しは安心できるのではないか。 【回答】 小中一貫教育実施については、平成 28 年度に策定された適正配置に関する市の既存計画において、小中一貫教育の実施検討に関する記載があり、市としては以前から進める考えはあったものである。今回の計画見直しにより、小中一貫教育を行うのにふさわしい地区について検討を行い、今回の案を提案している。 選定理由として、小中一貫教育を行うにあたっては「人間関係の固定化」というデメリットがある中で、クラス替えなどの対応ができる 1 学年 2 学級以上の規模が望ましく、そういった規模が確保される点や学校の広さ、校舎の更新タイミングなどがある。

	北犬飼地区では、北犬飼中学校の校舎の更新が必要になってきていることから、先進的な取り組みとして北犬飼地区が一体となった義務教育学校の設立を提案させていただいたものである。 また、リーダーシップ育成機会については、取りづらい期間が生じることは認識しており、解消するための取り組みをきちんとしていく考え。ただし、視察先では低学年の委縮は生じておらず、リーダーシップについても、6年生時点では未熟であっても9年生時点では一般的な中学3年生よりも身についているとの話であった。 視察については、一般の方をどこまで受け入れてもらえるかは視察先の判断であり、まずは教育委員会として視察を行い、研究を深めていきたい考え。 【意見】 現在示されている統合案とは別の第3の案として、義務教育学校ではなく小学校3校の統合という選択肢もあるのではないかと。予算的にも厳しいことは分かるが、できれば小中別の建物を近傍地に作り、小中学校の交流ができるような形を望む。 なお、仮に義務教育学校を新設する場合、現在の北犬飼中学校の場所は水没する地形であり学校敷地としては不適であると考え。 【意見】 人口が減少する中、学校再編は避けて通れないものと思うが、示された案を自分たちが受けれるには少し時間が必要であり、変更や工夫がでてくると考える。今年の初めに提起されたことについて、10月までに計画を策定するのは早急ではないか。 本質的な疑問として、全国で人口減少・少子化が問題となる中で学校再編は必要なのかもしれないが、少子化が進んでいる理由に対する議論が見えてこない。また、不登校の問題も増加しており、こうしたことに如何に対応していくか、位置づけていくかが示されていない。 少子化が進み続ければ、コミュニティは崩壊し、最後は自治体が崩壊する。このような現状に対し、真剣に議論しなければ、将来に全く展望を持てない悲しい会議でしかない。現状に対する考察・検討、そしてそれに対する対応・対策を話すことが、今日の会議のもっとも重要な本質的議論ではないか。 【意見】 今年の正月号の広報かぬまで、今後20年間で公共施設のメンテナンス費用が24億円必要だという記事を見た。学校再編は、こういった関係との兼ね合いが相当大きいと考える。学校再編の必要性を説明するにあたり、教育問題だけに特化するのではなく、費用面もきちんと説明して理解を得る努力をしてはどうか。 また、小中一貫教育の資料裏面について、肯定的な回答が示されているが、否定的なものはどのようなものか。 【回答】 公共施設の維持管理等については、市役所全体の非常に大きな課題であり、全く考えていないということではない。教育委員会としては、教育の本質・教育の目的を第一に考
--	---

え、再編計画を提案したものである。

文科省の調査は小中一貫教育の成果・課題を確認する内容であり、小中一貫教育を否定するような内容は示されていないかった。

【発言者返答】

資料中の小中一貫校に関する記載で、「既存の小・中学校の基本的な枠組みを残したまま」とあるが、どのような意味か。

【回答】

小中一貫校は、既存の小・中学校がそれぞれ連携して小中一貫教育を施す体制であり、教職員組織が小中それぞれに設置され、統一された９年間の教育目標を設定する。義務教育学校では一つの校舎に１～９年生が在籍し、日常的に異学年の交流が発生するが、小中一貫校では校舎が別なため、行事やイベント等で交流している。

【意見】

再編案のイメージができていない。小学１年生と中学３年生ではギャップが大きく、うまくマッチするのか疑問である。

少子化対策に関する意見があったが、子どもの数を増やしていく必要があり、少子化対策と学校教育が連携した施策を打ち出していかなければいけないのではないかと。

義務教育学校は、ずっと同じ校長や教職員でいるわけにはいかない。先生の影響は子ども達に対して大きいものがある。そういった綺麗事ではなく裏側の事情を示してほしい。

【回答】

十分な説明ができず申し訳ない。

教職員の異動については、既存の学校でも起こりうることである。ただし、小中一貫教育では一貫した教育目標を立て、教職員がその目標に従って一貫した指導を行っていくところが大きな違いかと思う。また、小中学校の先生方の相互乗り入れがしやすくなる点が、義務教育学校を導入する一番の効果と考えている。

小山市と佐野市への視察したが、小中一貫教育で求められている効果が上がっている。北犬飼地区では、北犬飼中学校の更新が迫っていることから、義務教育学校の設立に適していると考え提案した。

【発言者返答】

学校の建て替えは必要である。また、地域資源をどうしていくかも重要。

【回答】

視察先の小山市では、学校がある地域で養蚕や結城紬が有名であり、１～９年生が系統的にその文化を学んでいく取組を行っていた。また、統合前の小学校の各地域で行われていた農業体験や行事などに、子ども達がスクールバスで実際に現地に行き体験する取組も行われていた。これは、元の小学校の地域の子どもに限らず、学年単位で地域の文化に触れるものであり、より広い地域の子ども達が地域の伝統を学ぶ機会である。本市においても、義務教育学校に限らず取り入れていきたいと考えている。

	北犬飼中学校については、場所の選定などの検討が必要であり、建物の更新には標準期間で５年を要している。１、２年先ではなくさらに先を見据えた上で、北犬飼地区で特色ある教育受けられる、この学校の教育を受けたいと思える学校を作りたいという考えのもと、義務教育学校を提案したものである。 【発言者再返答】 タイムスケジュールが示されているが、９月にパブコメを行うまでに時間的余裕がないのではないか。姿が見えてくれば、もっとたくさんの意見が出てくると思う。もっとゆっくり時間を取り、皆さんの意見をしっかり反映させてほしい。 【回答】 今後の基本的な流れとしては、計画策定から地域への説明に入り、合意形成が図れた地区から統合準備委員会を設置して統合を進めていく。 仮に北犬飼地区で合意形成が取れた場合、校舎の建替えには概ね５年要するため、その期間に新しい学校での教育はどうするか、カリキュラムや教育課程をどう組んでいくか、地域との交流はどうしていくかなどをじっくりと検討していく考えである。 計画策定期間に関しては、ご意見として頂戴する。
	【意見】 再編にあたり、子供の意見は反映しないのか。一番大切なのは子どもであり、大人が勝手に決めるのではなく、子供の意見を聞き入れてあげる必要があるのではないか。 【回答】 学校の再編は、教育委員会の責任で考えていくものである。 子どもへの配慮として、統合前に交流する機会を設けたり、元居た学校の先生を統合先に異動させるなどの配慮を想定している。 子ども達の意見については、新しい学校作りの中できちんと反映させ、自分たちで学校を作っていくんだということを保護者や地域の方も一体となって進めていきたい考え。 【発言者返答】 子どもを対象としたアンケートを実施してはどうか。 【回答】 昨年の１０月に保護者を対象としてアンケートをとったのは、子供の意見を反映させた回答をもらうには、保護者が一番だと考え実施したものである。
	【質問】 説明を聞き、小中一貫校や義務教育学校をやりたいことは理解したが、合意形成はどのように判断するか。 義務教育学校ではない形で作るとなると予算上厳しいのだろうとは思いますが、何年かけて議論しても、合意形成の取り方次第では、地元との合意形成を取るのは無理なのではないか。

	【回答】 合意形成については、今回の意見交換会で出たご意見や反応をもとに、合意が得られていると判断できれば、計画に反映していきたい考えである。 一方、反対意見や合意が得られていない状況と判断されれば、地区や保護者の代表者を集め、地区としての着地点を模索していく必要があると考えており、場合によっては地区の検討委員会の設置も考えている。 【発言者返答】 今後のスケジュールのとの兼ね合いはどう考えているか。 【回答】 計画にまとめさせていただいた後、再度地区に計画の説明を行う。その場で賛成のご意見をいただけた地区については、地区検討委員会なしに統合準備委員会を設置し、統合に向けスタートする。賛成意見がない場合は、地区検討委員会を設置し、地区の方も含めて、地区の再編の方向性を検討していく。 10月に計画を決定しても、それに対するご意見を伺い、納得いただければ、最終的な着地点を探っていく考えである。 また、地区によっては計画策定よりも前に地域や保護者の方を含めて協議させていただく考えもある。北犬飼地区についても、本日結果をもって相談する場を設けるかどうかを相談させていただきたい。
	【意見】 再編によりスクールバスで通学することが想定されるが、バスに乗るために毎朝10～15分今までよりも早く起きなくてはならないのは、子ども達へのストレスなのではないか。 また、部活動や学年によりスクールバスを利用したい時間はばらつきがあると思うが、対応してもらえるのか。 統合自体は昔から話があり、仕方ないとは思っている。地区で教育について考える場も設けたが、いい答えは見つからなかった。 【回答】 スクールバスは市内ですでに導入事例があり、中学校の場合、今は朝練をあまりやらないため朝は共通、帰りは部活の有無で別便が運行されている。休日にも部活便を運航している。西小の事例では、学童に預ける子とそうでない子で、スクールバスやスクールタクシーなどの対応を行っている。 また、義務教育学校の場合、前期課程の小学生の下校時間が早い為、3往復している事例を確認した。 スクールバスについては、きめ細やかな対応をしていきたいと考えてあり、スクールバスに乗る時間を考慮した授業開始時間の検討なども必要と考えている。 ～事務局から事務連絡～ 1 いただいた意見は、全地区終了後、個人情報に配慮した形でHP上に掲載させてい

	ただく。 2 今後のスケジュールとしては、6月までに全 15 地区の地域住民向け意見交換会を実施し、7月からはいただいた意見を踏まえた検討、9月にパブリックコメントの実施、10月に計画策定を目指している。 3 計画策定後は、改めて地域に訪問して説明を予定している。
配布資料	<閉会>20:58 ・学校再編の目的 ・小中一貫教育について ・鹿沼市小中学校再編計画骨子及び鹿沼市の小中学校の配置図 ・アンケート用紙